

八王子市市史編さん室だより

稲 荷 山 通 信 第 7 号

発行日:2011年(平成23年)7月1日
発行者:八王子市総合政策部市史編さん室
〒193-0943 八王子市寺田町1455-3
TEL 042(666)1511 FAX 042(666)1512

『八王子市史研究』創刊号を刊行しました!

平成28年度に迎える市制施行100周年に向けて進めている、新たな市史編さん事業の一環として、このたび、『八王子市史研究』を創刊いたしました。

創刊号では「地方主権時代の歴史編さん」というテーマで特集を組むとともに、市史編集専門部会のこれまでの調査・研究の成果となる論文等を掲載しています。

また、市史編さん基本構想に掲げる「市民協働」を進めるため、市民の皆さまからも原稿を募集し、8編の応募の中から厳正な審査の結果、2編を掲載しています。

『八王子市史研究』は、市史編さんの成果を市民の皆さまにお伝えし、活用していただくため、毎年発行する予定です。

今年度中に発行する『八王子市史研究』第2号についても、市民の皆さまからの投稿論文等の掲載を予定しています。詳しくは次ページの応募要領をご参照のうえ、どうぞ奮ってご応募ください。



Contents

- 『八王子市史研究』創刊号を刊行しました! 1
- 『八王子市史研究』第2号投稿論文等応募要領 2
- 「市史編さん室顧問」及び「市史編さん研究協力員」を委嘱しました 3
 - 市史編さん室顧問への就任にあたって 村上直 3
 - 顧問・研究協力員名簿 3
- 専門部会の主な活動状況 4・5
- <地域からの声> ④ 八王子市川口町 高澤寿民さん 6
- 職員の異動 6
- 市史編さんのあゆみ 7
- 受贈図書・資料 7
- 歴史の窓⑦ 10年ひとむかし 大木悠佑 8

『八王子市史研究』第2号 投稿論文等応募要領

1. 原稿内容

市史編さん室では、『八王子市史研究』第2号に掲載するための原稿を、広く市民の皆さまから募集します。内容は八王子の歴史や自然に関する未発表の論文や調査報告など、下記(1)又は(2)に該当する原稿が対象です。

- (1) 論 文 過去の関係する研究成果を踏まえ、新しい見解が示されたもの
 - (2) 調査報告など 自ら調査し、分析した成果を報告するもの
- ただし、調査や研究活動そのものに関する記録などでも可とします。

2. 原稿枚数

論 文 16,000字以内(400字詰原稿用紙に換算して40枚以内)
調査報告など 8,000字以内(400字詰原稿用紙に換算して20枚以内)
※図表類・挿絵等のスペースを含む。

3. 応募要項

投稿を希望される方は、投稿のお申し込みをいただいた上で、原稿を提出してください。

・申し込みについて

申込期限：平成23年7月29日(金)17時まで

申込方法：市史編さん室に直接ご連絡ください。その際、投稿される原稿のテーマをお知らせください。

・原稿提出について

提出期限：平成23年9月20日(火)必着

提出方法：原則として書留にて、市史編さん室宛に送付してください。直接、持参される場合は、必ず事前にご連絡ください。

提出物：① 原稿(オリジナル原稿：手書きのものか、ワープロ等の場合はCD-R等の電子データが保存されたメディア)

② ①のコピー(プリントアウト)2部

③ 執筆者(グループ・団体等での投稿の場合は代表者)の氏名、郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、電子メールアドレスを明記したもの

※投稿は1人(または1グループ・団体)につき1篇までとします。また、原稿の文字数等、規定に沿わないものは、原稿を受領しかねる場合があります。

電子メールでの投稿は受け付けませんので、ご注意ください。また、送付いただいた書類・データは返却いたしませんので、応募される場合は必ずお手元に控えを残してください。

なお、応募される方は必ず事前に市史編さん室へ連絡してください。

4. 原稿審査

投稿原稿は、八王子市市史編集委員会の厳正な審査により、採否を決定します。審査にあたっては、①『テーマの妥当性』、②『研究方法の適切さ』、③『論理展開や結論の明確さ』などを基準とします。審査の結果により、原稿の修正をお願いする場合があります。採否の結果は審査終了後の11月中旬頃に、事務局からお知らせします。

5. 発行予定

平成24年2月

6. その他

『八王子市史研究』に投稿論文等が掲載された方には、掲載誌5冊を差し上げる予定です。

7. 原稿送付・お問い合わせ先

八王子市総合政策部市史編さん室：〒193-0943 八王子市寺田町1455-3

電 話 042-666-1511 / FAX 042-666-1512

「市史編さん室顧問」及び「市史編さん研究協力員」を委嘱しました

この度、八王子を中心とした地域研究において顕著な実績のある皆さまに、「市史編さん室顧問」及び「市史編さん研究協力員」にご就任いただきました。

顧問及び研究協力員の皆さまからは、これまでの貴重な研究の成果を元に、随時ご助言及びご協力をいただき、今後の市史編さん事業を推進いたします。また今回は、村上直市史編さん室顧問（法政大学名誉教授）に、メッセージをいただきましたので、ご紹介させていただきます。

市史編さん室顧問への就任にあたって

村上 直

八王子市は、多摩地域や関東地方の重要な都市として、個性豊かで特色ある歴史を展開してきました。こうした風土の市史を編さんするにあたっては、八王子市域から多摩や関東（山梨県を含む）を見るという視座を、一貫して取り入れていくことが大切だと考えます。例えば、小田原北条氏を支えたのは滝山・八王子城ですし、江戸の繁栄と文化を支えたのは現在の多摩であり、八王子市域です。ほかに、高尾山は戦国武将の崇敬をうけ、江戸町人たちの信仰、行楽の地として、千人同心と共に注目されていました。

さて、今回の市史編さんでは、この地域に生きた人びとが残した資料の分析により、日常生活の実態を明らかにするとともに、市外調査も広範に行い、市域と周辺との関連性を探ることも重要です。そして、この機会に八王子に関する歴大な研究の整理をすることも必要でしょう。

また市史編さん事業は、市民・研究機関・行政との交流の場にもなります。市民投稿を募集している『八王子市史研究』や、市民の目に触れる機会の多い『稲荷山通信』の活用は、その好機でもあり、市民参加型の自治体史編さんのきっかけになると思います。

現在の八王子市域では、先人の歴史的遺産を再認識しながら、都市八王子のあるべき姿を模索していくための、指針になるような自治体史の刊行が求められています。そのような視点から、私の自治体史編さんや地域研究の経験などを活かしながら、次世代を担う人びとに継承を図ることができるならば、大きな喜びです。

(むらかみ ただし)

顧 問 ・ 研 究 協 力 員 名 簿

八王子市市史編さん室顧問

村上 直（法政大学名誉教授）

八王子市市史編さん研究協力員

縣 敏夫	犬飼 康祐	梶 國男	後藤 安孝
齊藤 経生	佐々木 藏之助	清水 正之	新藤 恵久
丹野 美子	沼 謙吉	野嶋 和之	馬場 憲一
馬場 喜信	樋口 豊治	山辺 恵巳子	(敬称略・五十音順)

専門部会の主な活動状況

〔平成23年6月30日まで〕

原始・古代部会

今年度は『資料編 原始・古代』刊行に向けて、カラー写真や図版を多く取り入れた見やすい遺跡紹介を作るため、原稿執筆のほか、以下の作業を同時に進めています。遺跡発掘調査当時の様子がわかるスライドを検索し、掲載の準備を整えたり、市内の多くの出土遺物を見ていただけるよう工夫しながら写真撮影を行ったりしています。これから写真・図版の掲載の大きさや文章の調整など各ページの具体的な編集作業を進めていきます。

- ◇平成22年11月～ 『資料編 原始・古代』掲載遺跡地図・図版作成
- 12月～ 遺跡遺構写真スライド検索・掲載写真スライドのデジタル化作業・色補正作業
- ◇平成23年1～6月 八王子市埋蔵文化財整理室収蔵資料写真撮影・八王子市郷土資料館収蔵資料写真撮影

中世部会

引き続き市内に所在する中世文書の調査を進めながら、都内や近県にある資料で、主要なものの調査を進めています。大石氏や北条氏関係の文書には、関東周辺と関係の深いものも多いためです。昨年度は8月に滝山街道沿い周辺を実地調査し、滝山城下の痕跡を探りましたが、今年度は元八王子町で、八王子城下に関する古い伝承や街並み・道筋などについて、調査を行なう予定です。

- ◇平成22年11月 宮下町・戸吹町の実踏調査／12月 下恩方町浄福寺城跡実踏調査
- ◇平成23年1月 青梅市郷土博物館所蔵並木家文書の調査／2月 西寺方町宝生寺所蔵文書の調査、元八王子町宗関寺所蔵文書の調査／3月 初沢町高乗寺所蔵文書の補充調査、横山荘・梶田郷の故地実踏調査／5月 八王子城跡御主殿・根小屋地区の実踏調査／6月 府中市郷土の森博物館にて資料調査

近世部会

来年度に予定している『資料編 近世1』刊行に向けた資料調査・収集作業と、資料を後世に伝えていくという資料保存の観点からの資料整理を進めています。

八王子市内には多くの村がありましたが、それら村々の地域性を踏まえた市史となるよう、より多くの資料群を整理し、調査しています。また、市外にある八王子に関する資料も併せて調査、収集を進めています。

- ◇1月31日・2月1日 上田市立博物館にて佐藤嘉三郎家文書の調査(八王子養蚕関係の資料の閲覧・写真撮影を実施)
- ◇2月 郷土資料館所蔵資料の調査(八王子千人同心関係の資料の閲覧及び複写)
- ◇史料調査状況 由木地区、浅川地区、恩方地区、川口地区、加住地区(内6軒より資料借用、整理中)
- ◇『資料編 近世1』掲載候補資料の筆耕

近現代部会

近現代部会は、今年度に刊行する『資料編 近現代1』の編集作業を進めています。具体的には、これまで収集してきた9つの旧町村の公文書から、掲載する資料の選択および章構成を検討しています。またそれと並行して、故橋本義夫関係資料の整理、八王子市議会関係資料の整理、市史編さん室で借用させていただいている家別文書の調査および整理を継続しています。さらに、今年度より時代別チーム研究会(明治前期・明治中期から昭和初期(都市部)・明治中期から昭和初期(農村部)・戦中戦後復興期・現代の各チーム)を編成し、より充実した市史編さんを目指しています。

- ◇主な課題 1. 八王子市域に所在する近現代資料の調査 2. 東京都公文書館所蔵の八王子関係資料の調査 3. 市史編さん室で借用している家別文書の整理
- ◇主な活動 昨年度から引き続き 橋本義夫関係資料の整理、『資料編 近現代1』に掲載する旧町村役場文書の資料選択作業／3月～ 『資料編 近現代1』の掲載資料リストの作成／4月～ 部会委員および専門調査員を含めた部会会議／6月～ チーム別研究会の開始

民俗部会

地区別調査は、恩方地区の調査を中心に実施しました。調査内容は、社会組織、生業、生業と環境、衣食住、寺社信仰・民間信仰、年中行事、人生儀礼、口承文芸・民俗芸能など多岐にわたりました。恩方地区の補足調査を行った後に、年度内に民俗誌の刊行を予定しています。テーマ別調査では、民家、民俗芸能、民具、織物などの調査を実施しました。写真資料による地域民俗調査は、これまで市内で刊行された文献に掲載された写真から昭和30年ころまでの暮らしぶりを物語るものを選んだり、そのような写真をお持ちの方からご連絡をいただき、複写をさせていただいたりするなどしました。

これまでに地域で行われてきた調査の成果である文献調査は、戦前から現在に至るまで、また市内で刊行されたもの、官公庁刊行物、学術雑誌など、幅広く情報を収集しつつあります。

平成23年度は、丘陵部の民俗を明らかにするために、由木地区の調査に取り組み始めています。由木地区の民俗誌の刊行は、平成24年度を予定しています。

今後とも引き続き調査への市民の方々のご協力をお願いいたします。

- ◇平成22年11月 恩方地区集中調査(於 小津会館、恩方市民センター)
- ◇平成23年5月15日 平成23年度第1回実踏調査(於 由木地区 東中野、鑓水周辺)
- ※上記は合同調査のみ

自然部会

植物、動物ともに、季節によって調査・観察する対象が変わってきます。冬場の枯れた草木の中だからこそ、確認出来る植物があります。成虫になると捕まえにくいチョウも幼虫の時期なら比較的スムーズに捕獲出来ますし、冬眠中のコウモリなら採寸も出来るというわけです。一方、温かくなってくると自然部会のメンバーは山へ、川へ、野原や田んぼ、そして街へと、あちこちに日々飛びまわります。この時期は、ほんの少しの気温の差やその日の天候によって、確認できる種類が変わります。目的の動植物と出会うチャンスを逃さないように、空を睨みながら調査を進めています。

- ◇平成22年11月～ ほ乳類分野：山地や河川での野生動物の痕跡調査、目撃情報調査 鳥類分野：鳥類分布に関する文献調査、定点観測、ツバメの巣観察調査 昆虫類クモ類分野：屋外での生息調査、文献調査、標本作成 植物分野：屋外での植物相調査 文献調査

＜地域からの声＞④

八王子市川口町 高澤寿民さん

今回訪問したのは、川口町にお住いの高澤寿民さん。高澤さんは、「幻境山房」と名付けられた緑深いご自宅にお住まいで、現在は、市内川口地区で長く活動を続けてきた、川口郷土史研究会の顧問を務めている。

市外に育った高澤さんが、八王子に移り住むきっかけになったのは、母校の先生から「八王子に大きな養鶏場がある。紹介状を書いてやるから」といわれ、現在の大和田町にあった養鶏場に勤めたためであった。その後、市内で独立した高澤さんは養鶏業、後には製作所を営みながら、好きだった文学や歴史の勉強を続



け、地域の人びとと川口郷土史研究会を立ち上げるに至った。研究会には、高澤さんをはじめ、いろいろなおところから移り住んだ会員も多いというが、現在住む川口の郷土史をそれぞれが掘り起こそうと努力している。

ところで、高澤さんが長く郷土史の世界にあって気付いたことは、川口地区には海外でも高く評価されている「子を抱く土偶」※を生み出した縄文の文化、中世の地頭川口兵庫介や近代の文学者北村透谷などが遺した足跡、つまり歴史的遺産があるということであった。高澤さんは「私の人生には郷土史や文学、またいろいろな関係を通じての仲間がいた。私の財産は人脈です。そしてその交流の中から、際限なく深い川口の郷土史を学んだんです」と断言する。そしてまた、「私をこれまで支えてくれたのは妻なんです。まさに内助の功ですよ」と照れくさそうにささやく。

最後に、これからの市史編さんに望むことを教えてください、と高澤さんに聞いてみた。少し考えこんだ高澤さんは、長い白髭をなでながら「しっかりと市史を作るには年数がかかります。ですから、その全てを見届けることは、私たちのような高齢者には厳しい。だからこそ、『市史研究』のような形で、その過程を見せていただくとありがたいですね」と語った。

市史編さんというと、重厚な書籍を作るというイメージがあるが、手軽に新鮮な研究情報を得ることができる『市史研究』は、高澤さんにとって大きな価値を持つ刊行物であろう。これからも、さまざまな市民の要望に応えられる市史を目指したいものである。

※「稲荷山通信」第4号12ページで紹介しています。

職員の異動

【新任等】

(平成23年4月1日付)

木内基容子(室長)

健康福祉部次長兼介護保険課長より昇任

佐藤 広(専門管理官)

新規就任

松田 明彦(主事)

新規採用

宮崎 翔一(市史編さん専門員)

新規採用

(平成23年4月14日付)

渡部 恵一(主任・学芸員)

市史編さん室主事・学芸員より昇任

【転出】平成23年3月31日付

佐藤 広(室長)

定年に伴い退職

中村 元(市史編さん専門員)

任期満了に伴い退職

市史編さんのあゆみ

平成22年11月1日から23年3月31日まで

平成22年

- 11月 1日 民俗部会平成22年度部会調査(恩方地区)(~2日)
 15日 近現代部会平成22年度第4回部会会議を開催
 19日 近世部会平成22年度第6回部会会議を開催
 25日 片倉城跡公園・小宮公園において古環境確認のためのボーリング調査を実施
 28日 中世部会平成22年度第2回実踏調査(加住地区)
- 12月 9日 チャレンジインターンシップ学生(1名)を受け入れ(~10日)
 14日 原始・古代部会平成22年度第9回部会会議を開催
 19日 中世部会平成22年度第4回部会会議を開催
 20日 平成22年度第1回八王子市市史編さん審議会を開催
 22日 自然部会平成22年度第3回部会会議を開催
 23日 近現代部会平成22年度第5回部会会議を開催
 26日 中世部会平成22年度第2回実踏調査(下恩方町 浄福寺城跡)
 28日 稲荷山通信第6号発行(2000部)

平成23年

- 1月 20日 八王子市市史編さん室顧問、研究協力員を委嘱
 24日 原始・古代部会、市内遺跡出土品の写真撮影を開始
 民俗部会平成22年度第4回部会会議を開催
 28日 近世部会平成22年度第7回部会会議を開催
 30日 平成22年度第3回八王子市市史編集委員会を開催
 31日 近世部会平成22年度第1回資料調査(上田市)(~2月1日)
- 2月 7日 平成22年度市史編さん室主催職員研修を開催(講師:市史編集委員会副委員長新井勝紘氏「公文書と歴史資料を考える」)
 27日 民俗部会平成22年度第2回部会調査(恩方地区)
 中世部会平成22年度第5回資料調査(元八王子町 宗関寺)
- 3月 5日 中世部会平成22年度第6回資料調査及び近世部会第2回資料調査(初沢町 高乗寺)
 7日 民俗部会平成22年度第5回部会会議を開催
 31日 『八王子市史研究』創刊号刊行(2000部)

受贈図書・資料

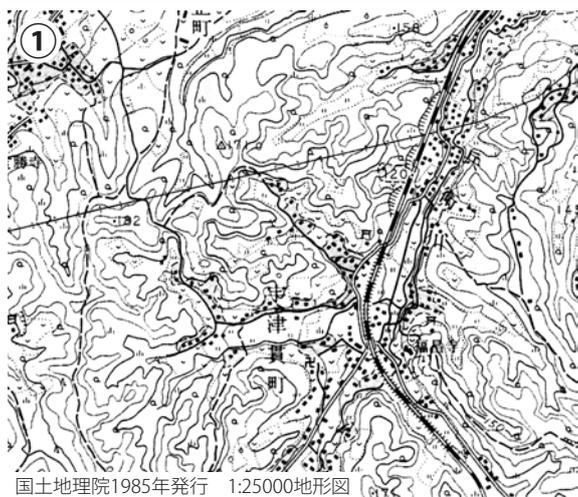
平成22年11月1日から23年3月31日まで

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

- 【個人など】 秋山勝男 犬飼康祐 及川良彦 加藤隆志 桂福寺住職 加藤智昭 梶國男 佐藤広
 佐藤秀文 清水正之 新藤恵久 寺田元信 仲野義文 西山和男 沼謙吉 前川實
 増淵滋 村野圭市 (敬称略・50音順)
- 【公的機関】 宇治市歴史資料館 福生市郷土資料館 寒川文書館 (財)たましん地域文化財団歴史資料
 室 パルテノン多摩(財)多摩市文化振興財団 情報保存研究会 多摩市教育委員会教育振
 興課文化財担当 豊島区立郷土資料館 八王子市立図書館市史編纂室 青森県環境生活
 部県民生活文化課県史編さんグループ 台東区教育委員会生涯学習課文化財担当 南
 相馬市博物館市史編さん係 (順不同)

歴史の窓⑦ 10年ひとむかし

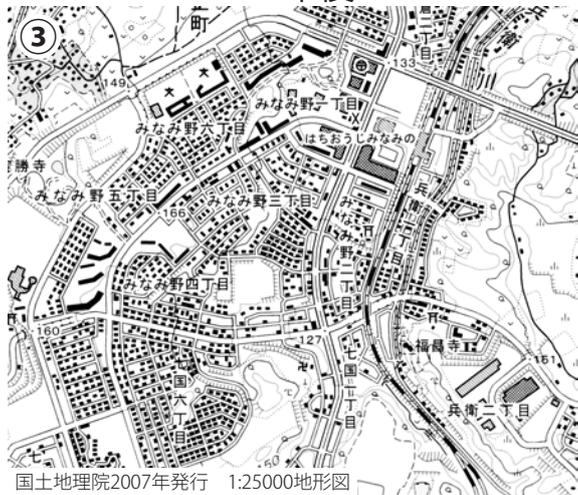
市史編さん専門員 大木 悠佑



10年後



10年後



10年後は…?

10年間。長い歴史で見ればたかが10年。されど、10年である。

みなみ野で古文書などの歴史資料の所在を確認した時、「10年ほど前に…」といった言葉を多く耳にした。10年前…。それはみなみ野地域の開発の真最中であった。

図①、②、③は1985年(昭和60)からの約10年毎の八王子みなみ野駅周辺の地図である。1985年時点(図①)では、山間に集落が点在しており、まだ駅はない。その約10年後(図②)では、山を切り開き、道を広げて(または造り)家を建てている。その約10年後(図③)ではさらに開発が進み、家がぎっしりと建ち並んでいる様子がはっきりとわかる。つまり、20年間というタイムスパンで見ても、あるいは10年ずつでも大きく変化している。地形的なことばかりでなく、そこに住んでいる人々もその生活も大きく変化していることだろう。つまり、この20年間に現在「みなみ野」と呼ばれる地域にとって、有史以来の最大の変化が起こっている。それと共に過去の痕跡が変化しつつあるのが、みなみ野の20年だとも言える。

過去の痕跡や記録を守ることも重要であるが、現在の営みや変化を記録化して残し、後世の参考に資することも大切なことである。将来この地域で解決すべき課題に直面した時に、開発や変化を決定した要因、状況や経過が記録化されていたなら、その課題を検証することで、解決の糸口が見つかるに違いない。

過去の出来事を示す記録(紙媒体のものだけではなく、写真やモニュメントといったものも含む。人間の行為の痕跡という広い意味での記録)によって、昔を懐かしむこともできるだろう。世代を越えて記憶を伝えることもできる。さらにより良い将来を考える手がかりにすることもできる。それが記録の持つ力だと言えるのではないだろうか。